



とまさの岸野 雅人

問

「雪國」と「北越雪譜」の朗読・暗唱に取り組もう

答 教育長

教育課程に位置づけて取り組む用意がある。

問 町有照明設備のLED化、どう考えているか。

答(教育長) どこから何が出来るか、前向きに検討する。

1

3月17日表明の「基本的な考え方」

夏の観光資源としては必要であるが、冬をどうすべきか →ランドー(ガーラ湯沢と湯沢高原を結ぶロープウェー)との関係もあり、即休止も難しい状況がある。

2

初回の契約時から内包されていた課題  
1.元請けともなる会社が経営を預かる  
2.日本ケーブルに押し付けるかのように契約を結んだ《負い目》がある

▼  
地元や町内の意見集約・合意形成をせず、赤字ながら努力しているSRSに「町の基本的な考え方」①を伝え、提案を求めた。

▼  
利潤追求を専らとする株式会社、詳しい得意分野を含んだ提案をする→日本ケーブルに都合の良い提案に見えてしまう。

▼  
ところが執行部は、この提案に○×△を付けて「これが町の意見です」とした。

▼  
■一般町民から見ると、「ねだった分だけあめ玉が貰えるとはどういう訳だ」「今どき、何てことだ」

■地権者・関係者から見ると、「賃料も払わぬ会社の要望で、布場スキー場を廃止するなどもってのほか」

■そうするとSRS・日本ケーブルは、「赤字ながら努力してるのに、求められて提案をして、なぜ悪役に?」

問

湯沢高原とスキー場《これまでの経緯と姿勢》

問 3月17日、スノーリゾートサービス(株)(以下SRS)と日本ケーブル(株)(以下(株)省略)に述べた「町の基本的な考え方」①は、いつ誰が決めた方針か。

答 昨今の情勢と平成2年・12年以来的の協定による。

問 9月20日までに、町自らの意見集約をせず、SRSの提案に○×△を付けて町での考えとしたのはなぜか。

答 SRS提案を町(執行部)で議論し議会に提出、今意見を頂いている。

問 現在の混乱は、②のような経緯からと考えるがどうか。

答 混乱などしてない。

問 「町の基本的な考え方」①をSRSと日本ケーブルに表明しているのに、『止める↓借りない↓(町の考え)』の土地について、地権者と話し合いをしないのはなぜか。

答 借りるといふメドが立たなければ、地権者にお願ひに行けるわけがない。

問

《契約に向けての進み方》

問 経営には直接口を挟まず、大方針や工事等の妥当性、改善の提案等ができる委員会を設置してはどうか。

答 それを含め何らかの対応を取るべく協議し、皆さんにはかる。

問 布場リフトの移設は計画を一年先送りし、地権者などと協議を始めてはいかがか。

答 布場は現状のままあと2シーズンやる(一年先送り)。提案があれば協議もする。

問 早めに、丁寧に、契約書作成に着手すべきと思うが。

答 年明け早々着手する。地権者とも話し始める。

問 契約は5年が望ましい。暫定契約は町内ごたごたの証明ともなる。臨む決意の程は。

答 ゴタゴタなどない。皆さん方もゴタゴタしないように。明るく元気に取り組む。

